

< 声明 >

## ICAN のノーベル平和賞受賞を歓迎します

2017.10.12

日本原水爆被害者団体協議会

私たち被爆者も参加して今年の 7 月 7 日、核兵器禁止条約が国連で採択されました。被爆から 72 年、核兵器を禁止し廃絶を目指す画期的な年となりました。

時を合わせるように、ICAN (2007 年以来、核兵器廃絶を世界に訴えてきた団体。現在、101 カ国 463 団体が結集) がとりくんできた核兵器廃絶キャンペーンにノーベル平和賞授賞が発表されました。ICAN のノーベル平和賞受賞は、核兵器の禁止・廃絶を世界の常識にする大きな意義があります。被爆者は大歓迎です。今後とも力を合わせ核兵器のない世界をめざしましょう。

核保有国や日本など核の傘に依存する国は核兵器禁止条約を拒否してきました。ICAN の平和賞受賞は、条約参加を促進する力になるに違いありません。

日本政府は、首相談話を発表しないまま、10 月 8 日、外務省の報道官談話を発表しました。「ICAN の行ってきた活動は、日本政府のアプローチとは異なる」として条約には触れず、従来通り「核軍縮・不拡散の取組を進めて行く」としています。

条約の賛否・批准は、政府の意思にかかっています。10 月 22 日、衆院総選挙の投開票が行われます。核兵器の禁止・廃絶を願う人々の力で核兵器禁止条約に賛成する勢力が大きくなることを切望します。